

平成31年度

目黒日本大学中学校

入学試験問題

国語

試験時間 50分

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- この問題冊子は、全13ページあります。
- 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図がありましたら、解答用紙を取り出してください。
- 解答はすべて解答用紙の決められた欄らんに記入してください。
- 試験中に質問がある場合は、手を挙げて監督者かんとくに知らせてください。
- 試験終了後、監督者かんとくの指示にしたがって問題冊子と解答用紙を提出してください。
- 解答は、特に指示がないかぎり、句読点や記号をふくむものとしします。
- 問題冊子および解答用紙に、受験番号・氏名を記入してください。

受験番号	氏名

一

次の各問いに答えなさい。

問1 次のぼうせん部の漢字の読みを答えなさい。

- ① 列車の車窓から海をながめる。
- ② お寺の境内を祖父と散歩する。
- ③ 父の期待に背く結果となった。

問2 次のぼうせん部のカタカナの漢字を答えなさい。

- ① 音楽会と展覧会がハイコウして開催かいさいされる。
- ② 今日はキヨクチテキに大雨が降るそうだ。
- ③ 両親の恩にムクいることができて安心した。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

数年前、毎週、歯医者さんに通っていた。^① 歯科医院が、眼科や耳鼻咽喉科とともに、一般の病院と異なるのは、患者に年齢の偏りが無いということである。お年寄りもいれば幼児もいる。ふだん間近に見ることのないそういうひとたちのふるまいやたずまいを、見るともなく観察するのは、治療前のちよつと心細い時間のなかでの、ささやかな愉しみでもある。

わたしが目撃したほほえましい光景のひとつを紹介しよう。歯医者さんには、週刊誌のほかに、子ども用に絵本やおもちゃが備えてある。それをめざとく見つけたその幼児は、お母さんに「あれ、読んで」とおねだりしていた。お母さんはさつそく絵本を手にとり、子どもを膝に乗せて読みはじめたのだが、子どもははじめこそ絵本をのぞいていたものの、やがて気はよそに行きだした。となりの子どものおもちゃが気になってしかたがないのである。眼は必死でそれを追う。

やがてお母さんは本を読み終え、子どもの気がよそに行っているのに気がついて、本を閉じる。すると、間髪いれず、子どもは「もう一回」とおねだりする。「ちつとも聞いてないじゃないの」と、お母さんはためいきをつきながら、また最初から読みはじめる。子どもはこんどもまた眼光鋭く、となりの子の遊びを注視している。それに気づいてお母さんが読むのをやめると、子どもは「もっと」とせがむ。

A ことである。聞く気がないのに「読んで」とせがむ。このとき、子どもはいつたいた何を求めていたのだろうか。

たぶん、話の中身が重要なのではない。話の中身以上に、母親の声がじぶんに向けられているということが大事なのではないか。つまりは、言葉の意味より言葉がじぶんに語りかけられているというシチュエーションのほうが、テキスト（物語の意味）よりテキストチュア（母親の声の肌理）のほうが。子どもはおそらく、じぶんが、いわば独占的に、母親の意識の宛先になっているという状況に浸っていたのである。

最近、朗読の練習に通う中高年の方たちが増えているそうだ。うまくなったら、ボランティアで保育園や幼稚園に出かけ、子どもたちに語り聞かせようというわけだ。^④ 気持ちは分らないでもないが、ひっかかる。

じぶんが子どもだったたら、と考えてみる。ひとりで寝つくとき、枕元で母親が本を読んでもくれるとする。そのとき、淀みない朗読にはたして心はほどこされるだろうか。字を読みまちがえてもいい。劇的な抑揚はなくてもいい。途中で居眠りして中断してもいい。それよりも、読みなれない本を、無理して、眠たいのを我慢して、じぶんのために読んでくれている、そういう場面にじぶんがいられることが心底うれしいのではないか。声がまぎれもなくじぶんに向けられているということが。

なれた朗読から響いてくるのは、不特定のひとに向けられた声だ。めりはりのある、緩急のある、澄んだ声。それはわたしに向けられていると

いうよりも、だれが聞いても耳あたりのよい声だ。だからふつう、それはアナウンサーや俳優・声優など、不特定多数のひとに語りかけることを仕事にしているひとたちが学ぶ。子どもが朗読に求めるのはそういう声ではない。じぶんがだれかにたいせつにされていると感じられること、それをこそ子どもは望んでいる。

子どもは親の声の質に敏感^{びんかん}である。学校に行くようになって、親の声が、社会のいちばん前の声に変わってくる。「ちゃんと宿題したら、遊園地に連れていってあげますからね」。「もしくできたら」という、ひとに対してまず資格を問う社会の最前列の声になってくる。親の顔のうしろ、声の背後に、社会が透^すけて見えてくる。いうまでもなく、そのような顔、そのような声が向けられるのは、じぶんの子どもというより、社会のなかのじぶんの子どもである。「あそこのお家のくちゃんはちゃんとやっているよ」と、子どももまた社会のなかに置かれる。

⑤ 話すほうも聴くほうも、社会の〈標準〉という枠組み^{わくぐみ}のなかで語りだされる。

子どもが、いや大人でも、ほんとうに浴びたい声はそういうものではない。背後に社会が透けて見えない、だれかの存在そのものであるような声、もつぱらわたしのみを宛先としている声である。そういう声のやりとりのなかで、ひとはまきれもない〈わたし〉になる。

〈わたし〉を気づかう声、〈わたし〉に思いをはせるまなざし。それにふれることで、わたしは〈わたし〉でいられる。気づかいあうこと、それは関心をもちあうことである。ちなみに関心 (interest) の語源は、inter-esse (インテル・エッセ)、「ともにある」「相互^{そうご}的に存在する」というラテン語のフレーズである。

(鷺田清一 『大事なものは見えにくい』)

問1 ぼうせん部①「歯科医院」の様子を次のように四字熟語を使って表します。□にふさわしい漢字を書き、完成した四字熟語の読みを答えな

さい。

・歯科医院には□□男女問わず、偏りなく患者が訪れている。

問2 ぼうせん部②「ほほえましい光景」とはどのような光景か。その光景を説明したものとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 母親が、子どもの気持ちがおもちゃに向いていることに気がついていながらも気づかないふりをして、絵本を読んでほしいとせがむ子どもの気持ちにこたえて絵本を読んでやっている。

イ 子どもがおもちゃに気を取られながらも母親に絵本を読んでもらうことをせがみ、母親は子どもがおもちゃに気を取られていることに気づきながらも子どもの気持ちにこたえて絵本を読んでいる。

ウ となりの子の遊んでいるおもちゃが気になって、いつも途中から絵本の内容が分からなくなってしまっているので、子どもが何度も母親に絵本を読んでほしいとせがんでいる。

エ 子どもが母親に絵本を読んでもらうことをうれしく思いながらも、となりの子のおもちゃが気になって仕方がないので、何度も母親に絵本を読んでもらうこととおもちゃを気にしないようにしている。

問3 Aに当てはまる言葉としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 当然の イ 余計な ウ 奇妙きみょうな エ おそろしい

問4 ぼうせん部③「子どもはいったい何を求めていたのだろう」とあるが、子どもが求めているものは何か。本文中から二十六字で抜き出しなさい。

問5 ぼうせん部④「気持ちは分からないでもないが、ひっかかる」とあるが、その理由を次のようにまとめた。次の文の□に当てはめるのにふさわしい言葉を本文中から三十字以内で抜き出さなさい。

・ □(三十字以内)であり、子どもたちは自分に語りかけられていると思わず、喜ばないのではないかと考えるから。

問6 ぼうせん部⑤「話すほうも聴くほうも、社会の〈標準〉という枠組みのなかで語りだされる」とあるが、その具体例としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア テストで平均点以下の点数を取った子どもに母親が「勉強しなさい。」と声をかける。
- イ 世界で活躍かつやくしているサッカー選手に会って、「握手あくしゅしてください。」と声をかける。
- ウ 運動会の徒競争で転んでしまった子にクラスメートが「大丈夫だいじょうぶ？」と声をかける。
- エ テニスの都大会で良い成績を収めた後輩こうはいに先輩が「よく頑張ったね。」と声をかける。

問7 この文章における筆者の主張としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の人がかけてくれるどんな言葉よりも親がかけてくれる言葉が一番人の心に届く。
- イ 相手を否定するのではなく、受け入れることで自分の言葉を相手の心に届けることができる。
- ウ 人に自分の言葉を届けるには、社会の中での自分の立場を知ってもらうことが大切だ。
- エ 人に届く言葉というのは、内容よりも相手に関心があるということが分かる言葉である。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① こんちゃんの自転車の後ろを、この前と同じようについて走る。② こんちゃんはこの前と同じ紺色の七分袖の、よれたTシャツを着ている。背中に6と書かれている。髪、ちよつと伸びてる。③ こんちゃんの足が右のペダルと左のペダルを、かわりばんこに踏む。こんちゃんは素足にサンダルをつっかけている。それもかなり大きめのやつ。お兄さんのだ、きつと。玄関にあつたのをただつっかけてきたんだ。こんちゃんちの玄関が目につかぶ。家族は四人なのに、玄関にはいつだって履物があふれている。おじさんが鮎釣りのときに着る、長靴がそのまま伸びあがったような、胸まで隠すウェーダーが置いてあつたりもする。④ こんちゃん、よくお父さんとお兄さんと一緒に川で鮎釣りをしてたつ。日がかんかん照つてるその下で。⑤ こんちゃんの自転車が橋を渡る。わたしも渡る。じやりじやりとタイヤが砂を踏む音がする。澄んだ川の水がけつこう速く流れている。高速道路の下をくぐり、くねつた道を進んで、こんちゃんのおばあさんの家に着いた。

草むらに羊がいた。一頭。子羊かと思つていたのに大きい羊だ。木に長いロープでつながれている。A こつちを見ている。

「トシゾー」

こんちゃんはびよんびよん跳ねるようにしてトシゾーに近づいていく。わたしもついて草むらに入っていく。

「元気になれよ、トシゾー。草、食べたんか？ 食べるよ。弱ると殺されるぞ」

あの優しそうなおばあさんが羊を殺すわけがないと思う。⑥ ばかだなあ、こんちゃんは。

こんちゃんはそこらの草をむしり取つて、トシゾーの鼻先にさし出した。トシゾーはためらわずにむしやむしやと草を食べた。

「よしよし。トシゾー、いい子だねえ」

こんちゃんは嬉しそうだ。

わたしもこんちゃんの真似をして、草をむしつてトシゾーの前に差し出してみた。トシゾーはやはりためらわずに食べる。トシゾーのくるくると渦まいている毛は薄汚れている。瞳が横に長くて、へへんと笑つているみたいなんだ。

トシゾーの周囲の草はだいぶ食べられていた。

こんちゃんは離れたところで草をむしっている。歌を歌いながら。聞いたことがあるような、ないような歌。大きい声で歌っている。ときどき声を張りあげる。音程がはずれているのだけはわかる。⑦ こんちゃんが喜んでるのがわかる。

草むらのむこうはもう山だ。暗い道が杉の林の中へと伸びている。見あげると、木々がB 山を覆っている。黄色く変わりはじめた葉もあ

る。上のほうに一本だけ大きく伸びあがっている木がある。風にちりちりと無数の葉が揺れている。見えない葉もきつと揺れている。タヌキもイノシシもいるらしい。むこうの山にはシカもいるらしい。

遠く、村を囲んでいる山々は[C]紫がかっている。そのさらにむこうの山は薄く灰色がかっている。そのまたむこうにも、山はどこまでもどこまでも空の下につづいている。山、こんなふうだったつけ。わたし、最近山を見ていなかった。

④ ごとつ。高速道路の音が聞こえてくる。まるで地面の下から聞こえてくるようだ。

いつか、わたしもこの村を出ていくんだろうなあ、と思う。ママとも、お兄ちゃんとも、パパとも別れて、どこか遠くの町へ行ってしまうんだ。それは都会だろうか。都会のことを想像すると、痩せた人ばかりが歩いているような気がする。痩せた人ばかりの町で一人で生活するんだろうか。さみしくならないだろうか。大人になったら、さみしくても平気になるんだろうか。太った大人になっても友だちができるだろうか。大人同士の友だちは子ども同士の友だちとは違うんだろうか。

わたしはブランコに腰かけてゆらゆらと揺らした。ぎーぎー、きしむ音がある。

こんにちはが腕にいつばい草を抱えて戻ってきている。よいしょ、よいしょ。口で言っているのがわかる。

トシゾーはいくらなんでもいつぱんにそんなには食べられないんじゃないの、と思う。それから、あ、こんにちは、きれい、と思った。どこからその考えが浮かんだのかわからなかったが、そう思うと、ますますこんにちはがきれいな人のような気がしてきた。

⑤ 今までわたし、こんにちはの何を見ていたんだろう、と思う。それから、こんにちはのことだけじゃなくて、自分のこともちゃんと見ていなかったかもしれない、と思った。自分の太っているとだけしか見ていなかった気がする。

空を見あげると、青くかすんだ空に雲はなかった。どこまでも、ただただ空は広い。いま空を見ているこの目だつてわたしの体だよ、と思う。ブランコのロープを握っている手も、地面を蹴る足もわたしの体で、と思う。わたしの体がここにいる。体はわたしだ。

そう思ったら、なんだか急に頼りない。

わたしは足で地面を突つ張りながら思いきり後ろまでさがり、それから足を浮かせた。ブランコが大きく揺れる。ブランコが後ろに振れるときは靴が地面をこすらないように足を[D]折り畳み、前に振れはじめると足をまっすぐに伸ばした。

ぎーぎー。

体が[E]運ばれる。風が顔にぶつかってくる。

「こんにちはーん」

こぎながら、呼んだ。

なんだー。答えながら、こんちゃんは近づいてきた。

トシゾーがゆつくりと体の向きを変えてこんちゃんのほうを向いた。

「ここでデートか」

いつものように「豚玉」を頼むと、研さんは言った。

「ちがうよ」

「いいって、いいって。だけど、よそで隠れてデートをするな。まだ早い」

研さんは丁寧にボウルのタネを混ぜてから、鉄板にじゃつと広げた。

はちべえはがらんとしている。お客はわたしだけ。わたしは入り口のほうを向いてすわっている。

「だから、ちがうってば」わたしは言った。

木曜日、学校で国語の時間にこんちゃんは先生の質問に答えられなかった。

「この主人公は、どうして涙をこぼしたんだと思う？」と先生はこんちゃんに尋ねた。

立ったまま、こんちゃんは手をズボンにこすりつけていた。頭を右にかしげ、それから左にかしげた。

「どんなことでもいいのよ。今野くんが思ったことを言ってみて。この子はどんな気もちだったんだろうね」

こんちゃんは唇の端をちよつと曲げて、それから小さな声で「わかりません」と答えた。

こんちゃんにはそんな癖があるのだ。喋りはじめる前に唇の端をちよつと曲げる。

「この子の気もちをね、ちよつと想像してみてごらん」

先生は言った。

こんちゃんはじつとうつぶむいていた。何も答えない。ほんとうに答えがわからないという顔をしていた。困りはてているように見えた。

「じゃ、いいです。すわって」

先生はほかの生徒の名前を呼んだ。

こんちゃんはたぶん、いろいろ考えてみても、主人公の気もちはやつぱりわからなかったのだと思う。「わからない」という答えは、こんちゃん

にとつてはそれ以外にはない正直な答えだったのだ。席についてもうつむいているこんちゃんを見て、そう思った。先生に尋ねられて、そんなふうに黙つてぢやいけないことがわかつていても、そんなふうに黙つていられるのは、それはこんちゃんだからだ。⑦ こんちゃんは、ずっと前からそんなふうだったのだ。

その日、学校の帰りに校門のところでこんちゃんと一緒になった。

「こんちゃん。こんど土曜日、また、はちべえに行く？」

わたしは聞いた。

こんちゃんはびつくりした顔でわたしを見た。

「お好み焼きを食べてから、またトシゾーンとこへ行くの？」

わたしはまた聞いた。

こんちゃんはびつくりした顔のまま、「あ、うん」と言った。

「わたしも一緒にトシゾーンとこへ行ってもいい？」

こんちゃんはちよつとおびえた顔になって、「あ、うん」とうなずいた。

亜佐美さんが大きいヘラでお好み焼きをひっくり返してくれた。いいこげ色がついている。もうじき焼きあがる。

わたしは入り口を見る。もうじきドアを開けて、こんちゃんが入ってくる。入ってきて、いつものように、うひつと、きつと笑うだろう。

わたしはお好み焼きに目を戻す。こんちゃんとまた自転車をこいで羊のところへ行ける、と思うと、ちよつと嬉しい。わたし今、こんちゃんを待っているのかな、と思う。待っている、と思う。なんかくすぐったくなって、お好み焼きを見ながらへへへ、と笑えてきた。

こんちゃん、まだかなあ。

わたしはまた入り口のドアを見た。

ドアは閉まったままだった。

ドアのほうを向いた自分の顔が笑つたままなのに気づいた。

こんちゃん、早く来ないかなあ。笑つた顔のまま思った。

問1 ぼうせん部①「こんちゃんの自転車の後ろを、この前と同じようについて走る」とあるが、どこに向かっているのですか。十五字以内で抜き出しなさい。

問2 ぼうせん部②「お兄さんのだ、きつと」とあるが、ここから読み取れる「わたし」の心情としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア こんちゃんが履^はいているサンダルは、前にこんちゃんのお兄さんが履^はいていたものだ^と確信する気持ち。
- イ こんちゃんが特に何も考えずに、雑然とした玄関からサンダルをつっかけてきたことを確信する気持ち。
- ウ こんちゃんが「わたし」のためにわざわざお兄さんのサンダルをつっかけてきたことを確信する気持ち。
- エ こんちゃんがお兄さんのサンダルを履^はくことで大人っぽく振^ふ舞^まおうとしていることを確信する気持ち。

問3 波線部ア～オのうち用法が違うものを一つ選び、記号で答えなさい。

問4 A E に当てはまる言葉としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア うつすらと
- イ みっしりと
- ウ ぎゅつと
- エ さらつと
- オ じつと
- カ ふわつと

問5 ぼうせん部③「ばかだなあ、こんちゃんは」とあるが、ここから読み取れる「わたし」の心情としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 羊に話しかけたところで理解できるわけがないのに、なぜこんちゃんは羊に話しかけるのだらうとあきれている。
- イ いつも優しいおばあさんが羊を殺すわけがないのに、そんなことを本気で信じているこんちゃんを軽蔑^{けいべつ}している。
- ウ 羊に元気になつてもらおうと、草をむしり取つては食べさせてやっているこんちゃんをかわいらしいと思つている。
- エ おばあさんに殺されないようにと必死に羊に草を食べさせてやっているこんちゃんをほほえましく思っている。

問6 ぼうせん部④「いつか、わたしもく違うんだろうか」から読み取れる「わたし」の心情としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 子どもでいらなくなることへの焦り^{あせ}
- イ まだ見たことのない都会へのあこがれ
- ウ 自分の将来に対する漠然^{ぼくぜん}とした不安
- エ 自分の置かれている境遇^{きようぐう}への不満

問7 ぼうせん部⑤「今までわたし、こんちゃんの何を見ていたんだろう、と思う。それから、こんちゃんのことだけじゃなくて、自分のこともちゃんと見ていなかったかもしれない、と思った。自分の太っているとだけしか見ていなかった気がする」とあるが、ここから読み取れる「わたし」の心情としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人の表面的な部分しか見られなかった自分を恥^はずかしく思うとともに、人の内面に目を向けることの大切さに気がついている。
- イ 人の表面的な部分だけではなく、内面的な部分も見ているという自信があったのに、そうではなかったと気づき落ちこんでいる。
- ウ 今までは自分のことは後回しで人の良い面を見つけるようにしていたが、これからは自分の良い面に目を向けようと決心している。
- エ 良い面も悪い面もふくめてその人自身を作り出しているのに、悪い面ばかりに気を取られていた今までの自分を反省している。

問8 ぼうせん部⑥「わたしは入り口のほうを向いてすわっている」とあるが、その理由を三十字以内で説明しなさい。

問9 ぼうせん部⑦「それはこんちゃんだからだ」とあるが、「こんちゃん」の人物像を説明したものととしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 動物の気持ちは理解できるが、人の気持ちを理解することができない鈍感^{どんかん}な人。
- イ 人の気持ちを考えるのは苦手だが、自分なりに理解しようとする前向きな人。
- ウ 人前に出ると緊張^{きんちょう}してしまい、思うように自分を表現できない不器用な人。
- エ その場しのぎで適当にやり過ごすことができない、真つすぐに正直な人。

問10

本文について説明したものととしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 情景描写を効果的に入れ、少年と少女の会話以外の部分を一人称で書き進めることによって、多感な時期の少女の揺れ動く心情を鮮やかに描き出している。
- イ 一文が短く、擬音語や擬態語が多用された軽快な文体を通して、何気ない日常の中でこれまでとはものごとの見え方が変化した少女の姿がさわやかに描かれている。
- ウ のんびりとした動物やユーモアのある大人との関わりを織り交ぜることによって、思春期を迎えた少女の繊細な心の揺れを明るく描いている。
- エ 時間がゆつくりと流れていく田舎を舞台に、ふとした瞬間に自分の本当の気持ちに気がつき成長する少女の姿が作者の視点から温かく描き出されている。

四

次の各問いに答えなさい。

問1

①②③のそれぞれの□に共通して入る漢字一字を書きなさい。

- | | | | |
|---|------------------------------|------------------------------|--------------------------------|
| ① | <input type="checkbox"/> が高い | <input type="checkbox"/> がない | <input type="checkbox"/> に余る |
| ② | <input type="checkbox"/> が出る | <input type="checkbox"/> がつく | <input type="checkbox"/> を洗う |
| ③ | <input type="checkbox"/> につく | <input type="checkbox"/> を折る | <input type="checkbox"/> であしらう |

問2

「姉に すすめられて 読んだ本は、とても面白かった。」の二ヶ所にかしよのぼうせん部の関係と同じものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いつになく教室は 静かだ。
- イ 私の兄は高校で英語を教えている。
- ウ 校庭にいたのはテニス部の先輩だった。
- エ 困ったら、兄と 姉に相談する。

問3

『ごん狐』と同じ著者の作品としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 手袋を買いに イ 大造じいさんとガン ウ 屋根の上のサワン エ 注文の多い料理店

